

農家が判定

使える

# 農業ツール選手権

Eoneren/gettyimages

農業にAIなどを使って生産性を高めるソリューションが急速に普及している。担い手農家アンケートの結果に基づいて作成した、役立ったツールのランキングをお届けする。

## 企

業が提供する農業サービスが、生産方法だけでなく、ビジネスモデルまで急速に変えようとしている。

ダイヤモンド編集部は、どの農業ツールが、どのような理由で農家から支持されているのかを明らかにするため、担い手農家アンケートの結果に基づき、役立った「生産DX・効率化ツール」ランキングを作成した（左ページ表参照）。

すると、農業界に新規参入した企業が首位に輝くなど、業界の秩序が激変していることが分かった。

同ランキングは毎年恒例だが、今年は1〜3位のツールが全て入れ替わる結果となった。

同ランキングの首位は、グリーンの農業AI（人工知能）プラットフォーム、eikakashidatta。畑に設置したセンサーで把握した環境データを生かして営農を最適化するシステムだ。ソフトバンクの事業だったが、2024年7月にグリーンに譲渡された。その後、出荷台数が1・6倍になるなど急速に普及している。

経験の浅い農家でも、eikakashiのサポートで熟練農家

写真提供：福田農場

マイコスやビール酵母を使った植物活性剤を使い、北海道網走市でコメ生産に成功し、業界を驚かせた福田農場

AIと脱炭素のソリューションが  
急速に普及



役立った「生産DX・効率化ツール」ランキング

順位	ジャンル・商品名	企業名	票数
1	農業AIプレーン e-kakashi	グリーン	37
2	AI・衛星データサービス		24
3	環境監視システム		22
4	生産・労務管理システム		21
5	営農支援システム		20
6	養豚DXツール		13
7	環境監視システム		12
7	バイオスティミュラント資材		12
9	-		11
10	-		10
11	動画共有サービス		9
12	情報共有ツール		7
12	農機		7
14	-		6
14	SNS		6
16	抑草ロボット		5
16	-		5
18	農機		4
18	農機		4
18	環境監視システム		4
18	有機栽培技術		4
18	AI(人工知能)		4

\*ダイヤモンド編集部「担い手農家アンケート」で「経営に役立った」と回答があったツールの票数をまとめた

に近い栽培ができ、農業生産法人だけでなく、福岡県のJAむなかたのイチゴ部会やコメ産地の農協などでも、所属農家のレベルアップに使われている。

2位は独BASFのAI・衛星データサービス、ザルビオワールドマネージャード。前回のランキングから得票数を6倍に伸ばす躍進となった。

3位は、トマトといった施設栽培の老舗メーカー、誠和のプロファインダーだった。環境データを分析して生産を最適化し、増収を実現する。

同社は近年、生産支援以外の領域にビジネスを拡大している。そ

コメ輸出計画の鍵握る  
バイオスティミュラント

同ランキング初登場で、7位に食い込んだのが、米国発の菌根菌資材マイコスだ。

マイコスの普及を進めるバイオ

の1つが脱炭素だ。ごみ焼却施設から出る二酸化炭素や廃熱を活用する農業ハウスのモデルづくりを佐賀市で行う。

農産物の流通にも手を広げる。日本航空（JAL）との協業で24年に法人事業者向け産直プラットフォーム、DOMARCHEを開設。1次産品のB to Bで当面、月の取扱高10億円を目指す。

シード・テクノロジーズによれば、同資材を利用した国内のコメ、ムギ、ダイズなどの推定作付面積は、24年の4万畝から、25年は10万畝へ急増する見込みだ。

急速に普及している理由は、渇水時にしか田んぼに水を入れなくてよい、日々の水田の水位管理などの作業が不要になる節水型乾田直播栽培と相性がいいからだ。耕作面積が拡大して人手不足に悩んでいる農業法人などから引く手あまたなのだ。

バイオスティミュラント資材を活用した乾田直播栽培は、日本の農業を変革する可能性を秘めている。マイコスと、アサヒグループホールディングス

子会社、アサヒバイオサイクルのピル酵母を使った植物活性剤などを併用して乾田直播栽培を行うと、稲作には不向きとされてきた北海道の畑作地帯でもコメ作りが可能になる。

北海道の福田農場の福田稔氏は、稲作が行われてこなかった網走市の畑地で18年から乾田直播栽培に取り組む。最初の2年間は収穫ゼロと苦杯をなめたが、前述の2種の資材を使うなど工夫した成果が出て、23年はもみべースで10<sup>㍗</sup>当たり10・8俵（玄米ベースで推計8・6俵）、24年は同8・8俵（同7俵）を収穫。品質も良好で、市内の飲食店向けに販売する。

生産コストは10<sup>㍗</sup>当たり3万円。現在の米価水準であれば十分に利益が出る。それどころか、10<sup>㍗</sup>当たり8俵（玄米ベース）を3万円で作成できれば、1<sup>キログラム</sup>約63円の原価となり、海外市場で戦える価格競争力を持つことになる。

バイオシード・テクノロジーズの広瀬陽一郎社長は、消費の減少で約680万<sup>ト</sup>まで縮小した国内のコメ生産量について、国内向け500万<sup>ト</sup>、輸出向け500万<sup>ト</sup>、計1000万<sup>ト</sup>に組み替えるプランをぶち上げている。

北海道は、広瀬氏が目指す農業の変革の発火点になり得る。従来の水田の他、福田農場のような畑地、さらには酪農のために牧草を生産していた草地でも、水を張らない新しいコメ作りが、補助金に依存しない形で拡大する余地があるからだ。

くしくも、石破政権は27年度からコメ政策を見直す方針だ。石破

## 産直EC、バイト募集アプリ それぞれの2強が激突



### 役立った「販売・調達ツール」ランキング

順位	ジャンル・商品名	企業名	票数
1	産直EC		39
2	産直EC		38
3	スキマバイト募集		12
3	1日バイトアプリ		12
5	-		7
6	宅配通販		5
7	フリマアプリ		3

\*ダイヤモンド編集部「担い手農家アンケート」で「経営に役立った」と回答があったツールの票数をまとめた

茂首相はかねて、水田での転作に補助金を出すことでコメ生産量を調整する減反政策の見直し論者で、コメの増産と輸出を主張してきた。米価下落による影響は、農家への所得補償でカバーする考え方だ。農政が、生産現場のイノベーションに追い付くのは意外と早いかもしれない。農業が大転換期を迎えて、企業への投資が本気度を増してきた。ただ、農家が激減し、農協が淘汰される時代は、農業に参入した企業にとっても選別のときだ。苛烈な戦いを勝ち抜いた農業者が、後に国内農業を変えたといわれることを期待したい。

## 三菱商事出資IT企業が 管理系ツールの首位に

本編集部は、担い手農家アンケートの結果に基づき、役立った「販売・調達ツール」と「経営・財務管理ソフト」のランキングも作成した。

役立った「販売・調達ツール」ランキング1位、2位はいずれも産直ECで、雨風太陽のポケットマルシェ、次いで、ビビットガーデンの食べチョクの順だった。ポケマルが昨年の11票から一気に39票まで伸ばし首位に立った。両産直ECの詳細は、42頁を参照してほしい。

役立った「販売・調達ツール」ランキング同率3位はいずれも短期バイト募集サービスで、タイムミーとデイワークだった。

タイムミーは農業の求人数とマッチング数がいずれも前年比3倍超になるなど爆速で成長中だ。スキマバイトで働きに来た人材を農家が自社の従業員に引き抜いてもOKというのが特徴である。

タイムミー関係者は、「野菜・果物の収穫と選果の求人ポリウムが大きい、畜産・酪農・養鶏など、単発バイトの活用が進んでいなかった領域にも手を広げ、農業界全体に貢献したい」と鼻息が荒い。

一方、農業専門をウリにタイムミーと渡り合うデイワークの求人数は20万件、年間マッチング数は17万件超に上り、いずれも前年比で4割増となっている。

デイワークの特徴は農業に特化していることだけではない。何と手数料が無料なのだ。公式ホームページでは「生産者、求職者、JAでさえも完全無料でご利用いただけます。中抜きもありません」と豪語している。

その秘密は、同サービスを運営するKamakura Industriesが、農協と組合員のやりとりをデジタル化する別の事業で収益を上げ、会社を運営していることだ。そのため農協との関係は密接なのだが、農協だけでなく、行政も農家にデイワークを紹介している。農協と行政という巨大組織の信用をバックにユーザー農家を増やしているからこそ、デイワークはタイムミーと同数の支持票を得られているのだ。

役立った「経営・財務管理ソフト」ランキング首位は、三菱商事が出資するウォータースェルの経営管理アプリ、アグリノートだった。

## 三菱商事が出資する アグリノートが高評価を得る



### 役立った「経営・財務管理ソフト」ランキング

順位	ジャンル・商品名	企業名	票数
1	経営管理アプリ		29
2	会計ソフト		18
3	会計ソフト		10
4	作業管理アプリ		6
4	会計ソフト		6
6	農作業記録アプリ		3
6	経営管理アプリ		3

\*ダイヤモンド編集部「担い手農家アンケート」で「経営に役立った」と回答があったツールの票数をまとめた

2万8000軒のユーザー農家を持つアグリノートは、農業アプリの横綱的な存在だ。

ユーザー農家がコメを販売できるアグリノート米市場も運営。売り手として2000以上の事業者が、買い手として大手米卸、神明をはじめ57組織が登録している。令和のコメ騒動の前後の米価の荒い値動きを契機にして、取引量を増やせるかどうかが今後の成長の鍵を握る。

会計ソフト同士の争いで、最も高い評価を得たのは、農業界の老舗、ソリマチの農業簿記だった。農業に特化した使い勝手の良さが高評価につながった。